

弘 前 大 学

國 史 研 究

第 143 号

〔史資料紹介〕	榎本武揚と幕府海軍	塚越 俊志	1
青森県外ヶ浜町所在山本遺跡の 航空レーザ計測結果について —三重の壕をもつ所謂「古代防御性集落」の紹介—	小口 雅史	25	
旧仙台藩士小野莊五郎の音楽論 —「音曲ノ不正ハ人民ノ品行ヲ乱ル」—	北原かな子 山下須美礼	33	
〔書評と紹介〕			
菊池勇夫著 『近世北日本の生活世界—北に向かう人々』	上田 哲司	46	
友田昌宏編著 『東北の近代と自由民権—「白河以北」を越えて』	鈴木 啓孝	50	
南 勉著 『近代の青森県における企業家ネットワークの研究 —人間関係の数値化・視覚化の視点から—』	白井 泉	54	
『青森県史 資料編 近現代8 日記』	田中 祐介	59	

弘 前 大 学 國 史 研 究 会

◎平成二十九年度弘前大学国史研究会大会が、九月十七日（日）弘前大学医学部臨床講義棟の臨床小講義室において開催された。
研究報告は以下の通りである。

「弘前藩領における木綿・古手類の移入および流通について」

あおもり北のまほろば歴史館 石山 晃子氏

「文化財保護と津軽歴史文化資料展示施設の整備」

弘前市教育委員会文化財課 鶴巻 秀樹氏

その後、国史研究会総会が開催され、会務報告、会計監査報告、会計報告が行われ、承認された。最後に、その他として、小口会長から、来年度の本大会は東北史学会との合同大会であり、十月六日、七日に弘前大学創立五十周年記念会館みちのくホールで開催されることが報告され、合同大会での研究報告をはじめ国史研究会会員の積極的な参加と協力をお願いがあった。

なお、来年度の次の東北史学会との合同大会は、国史研究会七十周年記念大会のときに実施される見込みであることについても述べられた。

(HT)

本会機関誌『弘前大学国史研究』への投稿について
投稿規定

◎論 文 四百字詰 60枚程度を原則とする（縦書き、以下同様）

◎研究ノート 四百字詰 20枚から30枚程度

◎研究余録 四百字詰 10枚程度

◎史料紹介 四百字詰 10枚から30枚程度

◎その他（書評・研究動向・歴史随想など）四百字詰 10枚程度

◎ワープロでの執筆に際しては、一段に付き32字×23行で組んで下さい。字数は右の規定の範囲で計算して、それを超えないようにして下さい。

◎デジタルデータによる投稿も可能です（事前に編集委員会へ御相談下さい）。行数・字数は、ワープロ執筆と同様に組んで下さい。なお、プリントアウトした原稿を添付のこと。

◎横書きを希望する時は、あらかじめ本会へご相談下さい。

◎原稿締切 一月末日と八月末日の年2回

※投稿に際しては、図表を最小限におさえ、完成原稿でお願いします。また、原稿は必ず御手元でコピーをとって保存して下さい下さい。投稿は本会会員に限ります。

※掲載については、原稿を受領後、編集委員会が審査し、一ヶ月以内に御通知します。なお、文中に掲載許可を必要とする写真・図版等を含む場合には、掲載決定後、著者の責任において権利者から許可の承諾書を取得して下さい。

※掲載分の論文等については、抜刷50部をさしあげます。

※本誌掲載の論文等を転載する場合は、本会の諒承を得て下さい。

戊辰戦争と「奥羽越」列藩同盟

栗原伸一郎著

敗れたりとはいえ、「奥羽越」列藩同盟は肥後等の諸藩との連携の可能性も秘めていた。維新史の新たな可能性を拓く好著。

A5判 三七六頁 八、八〇〇円

近世北日本の生活世界―北に向かう人々―

菊池勇夫著

鷹、津波、善光寺信仰、義経伝説、南部屋と旧主飛騨屋、ラクスマン来航時の通訳としての漂流民の子孫、『模地数里』や松浦武四郎の描く風俗、引継文書等、あらゆる側面から蝦夷地と北東北を描出する。

A5判 三二六頁 七、八〇〇円

東北の民俗芸能と祭礼行事

菊地和博著

田植踊、山伏神楽・番楽、シシ踊り、祭礼行事等、多種多様な側面から、東北の民俗行事と祭礼を活写すると同時に、とりわけ震災後の共同体の衰退に警鐘を鳴らす。

A5判 四二八頁 九、八〇〇円

近世旅行史の研究―信仰・観光の旅と旅先地域・温泉―

高橋陽一著

従来の歴史学の「抑圧からの解放」といった定型的な解釈を脱し、旅行者の視点と旅行者を受容する「旅先地域論」という接点を設定し、ビジネスとしての観光地論に及ぶ。

A5判 四五二頁 九、八〇〇円

東方正教の地域的展開と移行期の

人間像―北東北における時代変容意識―

山下須美礼著

晴耕雨読の日々を送る東北の地方知行制下の給人たちが戊辰戦争による藩の崩壊を目の当たりにする一方で、改革期ロシアの息吹を体現するニコライと出会い、新たな指針を得る道程を描出する。

A5判 二九八頁 七、八〇〇円

近世日本の言説と「知」

―地域社会の変容をめぐる思想と意識―

浪川健治・小島康敬編

東北諸藩の人物を中心に、時代に先駆けて新時代への軟着陸を図った人々の言説に意義を見出ししていく。

A5判 三三〇頁 八、六〇〇円

清文堂

〒542-0082 大阪市中央区島之内2-8-5

TEL.06(6211)6265 FAX.06(6211)6492

ホームページ=<http://www.seibundo-pb.co.jp> メール: seibundo@triton.ocn.ne.jp

●価格は税別

平成二十九年十月三十日

弘前大学 國史研究 第一四三号

036-8560 弘前市文京町一番地

弘前大学人文社会科学部日本史研究室内

編集者 弘前大学 國史研究会

発行者

振替口座 〇二三〇〇一―六三四番